



学校だより

令和7年9月30日(火)

第864号

さいたま市立日進小学校

TEL: 663-6942

いのち

校長 鈴木 晴雄

2学期も早1ヶ月が経ち、朝晩は涼しく、秋らしくなってきました。「実りの秋」の10月を迎える子どもたちは、勉強や運動、基本的生活習慣等、今まで積み重ねてきたことが実をつけ、大きく成長する季節であります。

「いのちの支え合い」を学ぶ授業

9月11日(木)、日進中学校さわやか相談員 酒井悦子先生をお招きして、6年生の各教室で「いのちの支え合い」を学ぶ授業を実施しました。「いのちの支え合い」を学ぶ授業では、つらいとき・苦しいときには助けを求めてよいことや、誰にどうやって助けを求めればよいかなどの具体的・実践的な方法を学び、問題に対する知識やスキルを身に付けることがねらいです。以下は、児童の学習感想です。

「大人や相談窓口がたくさんあることを知った。悩みを抱えた時は、まず誰かに相談をして、悩みを抱え込まないようにしたい。」

「相談したら心が軽くなったことがあるので、今度相談されたら上手く解決策を出してあげて、友だちを支えてあげたい。」

「相手から相談されなくても、元気がない友だちがいたら、『大丈夫?』と勇気をもって声をかけてみたい。」

「ロールプレイをして、AIや電話では分からぬ安心感があることに気付いた。」

「中学校は不安ですが、さわやか相談員さんがいると安心するしホッとした。」

「今日学んだことや人間関係プログラムで学んだ方法を使って、よりよい相談相手になれればと思った。」

授業中、子どもたちはペアになってロールプレイングを行う場面がありました。相手に体を向け、真剣な眼差しでうなずきながら話を傾聴する姿。温かく優しい眼差しで相手に寄り添うように解決策を提案する姿。そこに薄笑いなどはありません。あなた自身がかけがえのない存在であること、何物にも代え難い存在であることを共有する時間が、静かにゆっくりと流れていきました。

「明日(あす)も進むいのちの日」

さいたま市教育委員会では、毎年9月30日を「明日(あす)も進むいのちの日」と制定し、全市立学校において、AEDの一斉点検や児童生徒へAEDの設置場所等の確認を行い、学校安全管理体制の充実を図っています。

本校でも、AEDの点検はもちろん、地域施設も含めたAED設置場所の確認、緊急時の行動の仕方、さいたまPUSH講習会の周知を行っています。また、体育行事実施前後のブリーフィング、体育授業時内3回の体調確認、5・6年生の心肺蘇生法学習、6年生と日進中生徒の心肺蘇生法合同授業、職員研修等を実施し、実効的・持続的な学校安全管理体制の構築に努めています。

講話朝会では、宮越由貴奈さんの「命」という詩を紹介しました。この詩は、長野県立子ども病院で病気と闘っていた、小学校4年生の宮越由貴奈さんが書いた詩です。由貴奈さんは、この詩を書いた4ヶ月後、わずか11歳で人生を全うします。原文では、「せいいっぱい生きよう」という最後の文の文字が、大きくなっています。由貴奈さんにとって「せいいっぱい生きる」とは……。

子どもたちは、日頃、命について深く考える機会はあまりないかもしれません。また、子どもたちは、ゲームで生死を簡単に操作したり、生命を軽んじる言葉を躊躇なく使ったりする姿もあるでしょう。さらに、日常生活の中で、些細なことからけんかをし、相手の傷つく言葉をつかっている場面に出くわすこともあります。

人間の誕生の喜びや生きることの尊さ、ともに生きることの素晴らしいことを考え、自他の命を尊重し力強く生き抜く子どもたちを学校・家庭・地域が連携して育んでいきますよう御支援・御協力をよろしくお願ひいたします。

10月25日(土)は運動会。子どもたちの「心のスイッチ」は「運動会スイッチ」に切り替わりました。運動会に向け子どもたちも教職員も「全力」ing。